

第6講座

古文

要点のまとめ

◇古文の基礎知識

(1) 歴史的かなづかい

① 語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」→「わ・い・う・え・お」

② 「ア段の音＋ウ」「イ段の音＋ウ」「エ段の音＋ウ」
↓「オ段＋ウ」「イ段＋ユウ」「イ段＋ヨウ」

③ 「ぢ・づ・む・くわ・ぐわ・ゐ・ゑ」
↓「じ・ず・ん・か・が・い・え」

(2) 古語

① 現代では使われていない言葉。

例 いと↓とても げに↓なるほど

② 現代とは意味が異なる言葉。

例 をかし↓趣おもむきがある うつくし↓かわいらしい

◇古文の読み方

(1) 省略されている助詞を補いながら読む。

古文では「が」「は」「を」などの助詞が省略されていることが多いので、助詞を補いながら読むようにする。

(2) 主語を押さえながら読む。

主語を表す助詞「が」「は」の省略や、主語を表す助詞「の」などに注意して、だれの動作なのかを押さえながら読むようにする。

(3) 会話文に気をつける。

話し言葉の終わりは「〜と(いふ)」などという形になっていることが多いので、引用を表す「と」に着目して会話文をとらえる。

三字・四字熟語

(1) 次の——線部を漢字に書き直しなさい。

① 締切しめきりの期日をのばす。

② 青いかんばんが目印だ。

③ 彼はどきかれようがある。

④ じょうぎで測る。

⑤ これはきちょうな石だ。

⑥ ほうがん紙を使って書く。

(2) 次の三字熟語と同じ組み立てのものをあとから選びなさい。

① 論説文

② 雪月花

③ 超一流ちよういちりゆう

ア 初対面 イ 天地人

ウ 政治学

① () ② () ③ ()

(3) 次の二字熟語を組み合わせてできる四字熟語を四つ答えなさい。

公明 慎重しんちゆう 意味

無実 心機 無根

未聞みもん 深長 有名

一転 正大 終始

() () () ()

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

豊前の国の住人、太郎入道といふものありけり。^{*1}男なりける時、つねに猿を射けり。ある日山を過ぐるに、大猿ありければ、木に追ひのほせて射たりけるほどに、あやまたずかせぎに射てけり。^{*2}すでに木より落ちんとしけるが、なにとやらん物を木のまたに置くやうにするを見れば、
[A] なりけり。おのが傷を負ひて土に落ちむとすれば、子猿を負ひたるを助けんとて、木のまたに据ゑむとしけるなり。子猿は又、母につき^①て離れじとしけり。^②かくたびたびすれども、なほ子猿つきければ [B] 地に落ちにけり。^③それよりながく、猿を射ることをばとどめてけり。

（橘成季『古今著聞集』）

*1 男なりける時＝まだ出家していない時。

*2 かせぎ＝木のまた。

問一 線 a～c を現代かなづかいに直してすべてひらがなで書きなさい。

a [] b [] c []

問二 [A] にあてはまる言葉を文中から漢字二字で書き抜きなさい。

[]

問三 線①「助けん」とありますが、だれ（何）が助けようとした

のですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 太郎入道 イ 子猿

ウ 大猿 エ 作者

問四 線②「離れじとしけり」の現代語訳として最も適当なものを

次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 離れようとした
イ 離れまいとした

ウ 離れてじっとしていた

エ 離れてもすぐもどった

問五 [B] にあてはまる言葉として最も適当なものを次のうちから選

び、記号で答えなさい。

ア 大猿のみ

イ 子猿のみ

ウ もろともに

エ 我とともに

問六 線③「それよりながく、猿を射ることをばとどめてけり」と

ありますが、それはなぜだと考えられますか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 一度に二匹もの猿を手に入れたので、当分の間狩りをする必要がなくなったから。

イ 母猿と子猿の情愛に強く心をうたれ、今まで自分がしてきたことを反省したから。

ウ 子猿を助けることもできずに矢を受けて死んでしまった母猿の恨みがこわかったから。

エ まもなく出家する身であったのに、猿を助けられなかったことにひどく心を痛めたから。

オ 出家を志す身でありながら猿を殺してしまったことを人にとがめられたから。

練習問題

1 次の古文と現代語訳を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔古文〕

かむなは小さき貝を好む。これ身^①知れるによりてなり。みさごは荒磯^{*1}にある。すなはち、人をおそるがゆゑなり。われまたかくのごとし。

身^②を知り、世を知れば、願はず、わしらず。ただしづかなるを望みとし、憂^{うれ}へなきをたのしみとす。すべて世の人のすみかをつくるならひ、

必ずしも、身^③のためにせず。あるいは妻子・眷族^{けんぞく}のためにつくり、あるいは新昵^{しんぢつ}、朋友^{ほういう}のためにつくる。あるいは主君・師匠^{ししやう}、および財宝・牛馬^④のためにさへこれをつくる。われ、今、身^④のためにむすべり。人のためにつくらず。ゆゑいかんとなれば、今の世のならひ、この身のありさま、ともなふべき人もなく、たのむべき奴^{やつこ}もなし。たとひ、ひろくつく

れりとも、誰^{たれ}を宿し、誰をか据^すゑん。
(鴨長明『方丈記』)

〔現代語訳〕

やどかりは小さな貝を好(んでその中に住)む。これは[]を知っているからである。みさごは波の荒い海岸に住んでいる。そのわけはつまり、人間を恐^{おそ}れるためである。自分もまたこのよう(なやどかりや、みさごと同様)である。[]を知り、世の中(のはかなさ)を知っている

ので、何も願わず、あくせくしない。ただ静かなのを望みとし、心配のないことを楽しみとする。だいたい世間の人が住居を作るならわたしでは、必ずしも、[]のために作らない。ある時は妻子や従者のために作り、ある時は親しい人や、仲のよい友のために作る。(またある時は主君や師匠、それから財宝や牛馬のためにさえこれを作る。(しかし)私は、今、[]のために作った。他人のために作ったのではない。

(A)、今の世の中の習俗や、自分の境遇(を考えると)、いっしょに

暮らさなければならぬ人もなく、頼りにできる召し使いもいない。たとえ、広く作ったとしても、誰^{だれ}を泊^とめ、(B)。

*1 みさご 海辺に住む大型の鳥。

問一 線a、cを現代かなづかいに直し、ひらがなで書きなさい。

a [] b [] c []

問二 線「これ」の指している内容を古文中から五字以内で書き抜きなさい。

問三 (A)にあてはまる現代語訳として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア なぜかというところ
イ 事情が思わしくないので
ウ 人に貸そうと思うのだが
エ ただ良くないと言ってしまえば

--

問四 (B)にあてはまる現代語訳として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 誰を召し使いとして雇えばいいのだろう
イ 誰を拒絶すべきかわからない
ウ 誰かを家に呼びたいものだ
エ 誰を住まわせようか、そのような人はいない

--

問五

古文と現代語訳を読み、内容を次のように「ノート」にまとめました。これを読んで、あとの(1)～(4)に答えなさい。

「ノート」

●前半の内容…住む場所についてのたとえ話

・やどかり…「身」を知っているので「小さき貝」に住む。

・Ⅰ…「人をおそるる」ので「荒磯」に住む。



・作者…「われまたかくのごとし」

↓やどかりやⅠと同様に、「身」を知り、世の中を知っているので

「しづかなるを望みとし」

⇔対句

Ⅱ

●後半の内容…人間が住居を作ることについての作者の考え

・世間の人…住居を作るときは、必ずしも「身」のために作らない。妻子、従者、親しい人、仲のよい友、主君、師匠、財宝、牛馬などのために作る。



・作者…Ⅲ「も」たのむべき奴「もないので、「身」のために住居を作った。

※注意…古文中の「身」は、二つの意味で用いられている。

・線①・②（前半）の「身」ⅡⅣという意味。

・線③・④（後半）の「身」ⅡⅤという意味。

↓同じ語であっても、文脈に気をつけて解釈かいしやくする必要がある。

(1) Ⅰ・Ⅲにあてはまる言葉を、Ⅰは三字、Ⅲは七字で古文中からそれぞれ書き抜きなさい。

Ⅰ

Ⅲ

(2) Ⅱにあてはまる言葉を古文中から書き抜きなさい。

(3) Ⅳにあてはまる言葉として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア とりえ イ 心の中

ウ 身のほど エ 身体の大きさ

--

(4) Ⅴにあてはまる言葉として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 体の健康 イ 本来の目的

ウ 身寄り エ 自分自身

--

問六

古文に現代語で題をつけるとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 自分のための家 イ 生活の手本となる動物

ウ さまざまな家 エ 世の中の習俗

--